

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

91

福岡県立鞍手高等学校 定時制課程

自己評価		評価(総合)	
学校運営計画(4月)			
学校運営方針	基礎的・基本的な学習の学び直しを中心に、意欲的に学ぶ態度を育て、社会的自立の基盤となる確かな学力の育成に努める。 個々の生徒の教育課題を明確にし、より深い生徒理解に努めるとともに、生徒の健康・安全の指導を充実させる。 個々の生徒の進路希望に応じた進路指導を行い、希望進路実現に対する意識の高揚を図るとともに職業意識を醸成する。	A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標 具体的目標		
大変、落ち着いた雰囲気の中で教育活動を行うことができた。特に進路指導においては卒業予定者全員が希望する進路先に内定した。生徒が持つ教育課題の多様化に対応しながら、本年度はさらに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、活力ある学校づくりを推進する。また、本年度は創立80周年を迎えるため、生徒会を中心に学校行事を充実させ、帰属意識と自己肯定感を高め、生徒の主体的に学習に取り組む態度を養う。	基礎的・基本的学力の育成を行う。		ICTに関する職員研修を実施し、ICT機器の積極的活用等、授業改善を図り、生徒が自ら学ぼうとする授業を目指す。また、総合的な探求の時間を充実させ、生徒の学習意欲を高める。
	学校行事や生徒会活動の活性化を図り、出席率向上を目指す。		欠席や欠課が多い生徒への早期の面談を充実させ、成績不振の生徒の指導・改善に努める。
	個々の教育課題を把握し、生徒相互、生徒と職員の信頼関係をつくる。		外部機関との連携を深め、日常的に生徒に対する情報や意見交換を行い、全職員の共通理解のもと指導を行う。
	生徒の心身の健康状態の把握に努める。		個人面談や学校生活アンケートをもとに、生徒の生活状況を把握し、健康で活力ある学校生活を送ることができるよう支援する。
	生徒の自主的な進路選択を支援する。	早期に進路希望を把握し、進路実現に向けた支援を行うとともに、進路講演会等職業意識を醸成する取組を積極的に行う。	
生徒ひとりひとりを大切に、人権が尊重される環境づくりに取り組む。	人権教育を充実・発展させるとともに、学期ごとに全職員で個人面談を行い、生徒ひとりひとりの状況把握に努める。		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
	項目ごとの評価

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務	確かな学力の育成と特別活動の充実を行う。	授業改善を図り、魅力ある授業を実施し、授業への意欲を喚起する。 ICTを活用を積極的に行い、個に応じた授業を工夫する。 総合的な探究の時間やホームルーム活動の充実を図る。	B B A	生徒自身がICT活用を通して学びを深めていくような授業づくりを行う。また、総探において調べ学習が主とならないような活動内容を考えていく。 欠課時数が超過しそうな生徒に対して、1学期の早い時期から担任と連携した指導を行う。また、進級・卒業に係る教務規定を見直す。	
	円滑な進級・卒業の実現を図る。	欠課の状況を把握し、担任と連携した指導の充実を図る。 皆勤・精勤の表彰を年3回実施し、出席状況の改善を目指す。 家庭や事業所との連絡を密にし、生徒の状況把握に努める。	B A A		
	生徒ひとりひとり共感的に理解する	生徒の実態に応じた個人面談を行い、より効果的な面談になるよう努める。 いじめの未然防止のため、教育相談の場を整備する。	A A		
生徒指導	安心・安全に生活できる環境をつくる	全職員での登下校指導に加え、休み時間の巡回も行い、問題行動等の未然防止につなげる。 生徒の問題行動等に対し、迅速な情報共有を行い、適切な対応につなげる。	A B	いじめ問題対策委員会で議題に出た生徒の情報を、職員全体に共有する場を設ける。 年度当初から計画的に登下校指導、校内巡回を行うことで、未然に問題行動を防ぎ、安全安心な学校づくりを目指す。 早い段階で生徒会への行事に対する意識づけを行う。	
	生徒に活躍の場を提供する	生徒会が主体となり、学校行事を活性化させる。	B		
進路指導	生徒の進路選択の支援と細やかな進路指導	生徒自らの能力や適性を発見させるためにも在学中の就業の促進を図る。 企業人等による進路講話を実施し、自らの進路に見通しを持たせる。 進路ガイダンスを実施し、進学希望生徒への進路選択を早期に支援する。	A B B	主にアルバイトの形で約7割の生徒が就業しているため、進路講話や進路ガイダンス等を通して、生徒の就業意欲を更に高め、自らの進路を積極的に考えさせる。 職業安定所との連携を深め、主に卒業予定者の就職支援を行う。また、上級学校のオープンスクールへの積極的な参加を促す。	
	生徒への進路情報の提供	職業安定所との連携を深め、的確な就職支援を行う。 オープンスクールや学校説明会等への参加を促進する。	B B		
保健	心身の健康の保持増進を図る	定期健康診断の意義を周知し、受診率100%を目指す。 生徒の生活環境を把握し、健康な学校生活が行えるよう指導助言を行う。	B B	一部の健康診断においては、受診率100%を達成できた。次年度は、定期健康診断の重要性を全体に指導する場を設定していく。 残食軽減のための取り組みを継続していく。校内の清掃活動を生徒会と連携し継続していく。	
	給食指導の充実	安全な給食提供を行い、給食施設の衛生管理を行う。残食軽減を図る。	A		
	環境整備と美化	生徒会と連携し、清掃活動を定期的に行い、環境美化を強化する。	A		
部活動	部活動の活性化(部員数を増やす)	活動場所や道具類の管理を徹底する。 部活動におけるいじめの防止と早期対応に努める。 部活動内でのルールに共通理解を持ち、意欲的に取り組める環境を作る。	C A B	自分の道具を自分で管理するようにさせる。また、部員全員で向上できるように組織的、計画的な部活動運営を行う。	
	人権・同和教育	人権が尊重される学校づくりの推進	人権が尊重される「学習環境づくり」「人間関係づくり」のため、個人面談を工夫する。 「安心安全な学校生活」実現のため、生徒一人ひとりの状況に応じた指導を全職員で行う。		B A
		家庭・地域、関係機関及び校種の連携	家庭訪問、校種間での情報交換、職場訪問、ハローワーク等との連携を密にする。 生徒の発達段階に応じた系統的な取り組みに努める。 全職員で生徒の情報を共有し、生徒の希望進路への実現を支援する。		A A B

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	タブレットやICT機器を活用し、個別化、最適化された授業に取り組んでいただきたい。全員が進級、卒業できるよう出欠の管理も含めてより一層家庭との連携を密にしていきたい。
A	関係機関等とも連携し、教育相談の機能充実に努めていただき、生徒が明るく活力のある学校生活を送ることができるよう取り組んでいただきたい。
B	就職に関しては、早い段階から志願理由書の書き方や面接等について細やかな指導をお願いしたい。
A	健康安全に関する指導の充実がうかがえる。今後も継続していただきたい。
B	新入生の入部率が向上したことは大変喜ばしい。
A	日々の教育活動を通じて生徒の人権意識の涵養に取り組んでいただき、お互いを思いやることのできる集団づくりをお願いしたい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ICTの活用に関する研修を充実するとともに、教員の授業改善を促す。
- 個人面談や各種アンケートにより把握した個々の生徒の不安や悩みを、教員間および関係機関と情報共有し組織的に対応する。
- 就職試験に係る志望理由書の書き方や面接、適性検査等について、外部講師を招聘した講習会を実施する。
- 給食に関する研究を実施し、残食を減らすとともに食に関する指導の充実を図る。

評価項目以外のものに関する意見

今年度創立80周年の節目の年を迎え、地域から愛される定時制高校であることを再認識した。今後も多様な生徒の学び舎として発展されることを期待する。